

大会ロゴで植樹祭をPR

第72回

# 全国植樹祭



木を植えよう びわ湖も緑のしずくから

◀全国からマークには393点、テーマには1730点の応募がありました。



▲参加者による記念植樹



▲天皇皇后両陛下によるお手植え、お手播き

式典では林業活動に貢献された方への表彰や、参加者による記念植樹などが行われます。

## 2021年春(令和3年) 甲賀市が主会場となり 全国植樹祭 開催



### 第72回全国植樹祭

**日程** 2021年春  
**場所** メイン会場(式典会場) 『鹿深夢の森』  
**内容** 式典行事 (両陛下によるお手植え、お手播き) など  
 植樹活動(招待者等)  
**主催** 公益社団法人国土緑化推進機構 滋賀県

▲式典会場イメージ図

### 滋賀県下の開催は 昭和50年以來2回目

2021年(令和3年)に「第72回全国植樹祭」が『鹿深夢の森』で開催されます。

県内11の候補地の中から甲賀市が選定された理由としては、集客力、交通の利便性などの項目や、古くから「甲賀ヒノキ」と言われる良質の木材の産地であること、また、琵琶湖に注ぐ大なる水源林を有していることなどが評価されたものです。

全国植樹祭は、昭和25年に山梨県甲府市で第1回(名称は「植樹行事並びに国土緑化大会」)が行われて以降、毎年春に開催されているもので、天皇皇后両陛下がご臨席される四大行幸啓のひとつです。滋賀県では昭和50年に現在の栗東市金勝山(現県民の森)での開催以来、2回目となります。

### 植樹祭の果たす役割 日本の森林率は67%

日本は、国土に占める森林の割合(森林率)が67%と国土の約2/3を占める世界でも有数の森林国です。また滋賀県の森林、緑の割合は県土の約半分を占めており、古くから建材や薪としての利用、また生物多様性に果たす役割や、地球温暖化の防止、台風などの大雨の際に土砂流出を防ぐなど、さまざまな役割を担っています。

こうした先人が守り、育て、活かしてきた森林と人との関わりを改めて認識し、今を生きる私たちも自然の大切さを次の世代につないでいこうとするのが『全国植樹祭』です。

日本一の琵琶湖を擁し、水や森林と人が密接に関わっている滋賀県で開催する全国植樹祭の果たす役割は、これからの自然環境や、環境問題を考える上で、その大切さを全国に広める大変重要なものになります。

### 森林と琵琶湖

県面積の約1/6を占める琵琶湖は、約400〜600万年前に地殻変動により誕生したと言われています。野洲川など約120もの河川から注がれる琵琶湖、また琵琶湖に蓄えられ、宇治川や淀川などに流れる水は、下流域の京都や大阪の人々の生活も支えています。その水源は森や山に降る雨や雪が主となっています。



▲琵琶湖へと注がれる河川

### 人と深いつながり『里山』

そうした人と深い関係である森のことを『里山』と呼びます。

その里山は、近年、農林業の担い手不足に伴う耕作放棄地の増加などの理由により減りつつあり、保全活動へ積極的に取り組む必要があります。

自然は先人が守って来られた大切な宝です。みんなの手で、山・森・川、そして里山を保全していきましょ。